

「第2期みどりのわ・ささえ愛プラン」素案意見募集の実施結果について

(1) 概要

① 意見募集期間

平成 22 年 12 月 20 日（月）から平成 23 年 1 月 31 日（月）まで

② 周知方法

素案冊子や概要を掲載したパンフレットを区、地域ケアプラザ、地区センター等の窓口で配布したほか、緑区ホームページへの掲載、区連会や民児協定例会などの会合の場での説明、各種講演会での資料配布、福祉保健に関係する団体や施設への資料送付などを行いました。

③ ご意見の応募方法

郵送、ファクシミリ、電子メール

(2) 実施結果

<件数> 26 件

<内訳>

◇応募方法

ハガキ	25 件
ファクシミリ	1 件
合計	26 件

◇性別

男性	11 件
女性	8 件
不明	7 件
合計	26 件

◇年代

10 歳代以下	-
20 歳代	-
30 歳代	1 件
40 歳代	3 件
50 歳代	-
60 歳代	8 件
70 歳代以上	14 件
合計	26 件

◇お住まいの地区

東本郷	-	新治中部	8 件	十日市場団地	1 件
鴨居	3 件	三保	2 件	霧が丘	-
竹山	1 件	山下	2 件	長津田	5 件
白山	3 件	新治西部	-	その他	1 件
合計					26 件

<主な内容>

- 地域活動への担い手・後継者不足について、地域活動への若い方の参加促進の必要性について、ポイント制や証明書発行などによるボランティア参加の仕組みづくりについて、意欲のある方を広く公募することでの地区別計画推進の取組について（6 件）
- 一人暮らし高齢者や若年者に対する見守りや交流などによる支援体制づくりについて、「防災ささえあいカード」の情報を活用した災害時に向けた取組の必要性について（6 件）
- チラシ設置などの情報伝達の工夫について、団体間の情報共有の必要性について（4 件）
- 地域住民のつながりづくりの必要性について（3 件）

いただいたご意見等の一覧

番号	項目				ご意見	緑区の考え方
	地区別計画	基本目標	区計画・ 第2期プラン について	全般について 福祉保健 緑区の地域		
1	鴨居	-	-	○	とじこもり高齢者に対する、「さあ」と言う時の連絡方法（高齢者からの）	いただいたご意見は、今後の計画推進の参考とさせていただきます。
2	鴨居・竹山・長津田	-	-	-	※ボランティアをポイント制にすると参加者が増えて良いと思います。資金は商店会などで出して頂いて、参加者のみの利用にします。不足分は自治体からもお願いします。 ※身分証明書を発行して、一定期間の不参加の場合は、再発行などの取得要件を決めます。ボランティアの内容により、ポイントを決めます。	いただいたご意見は、今後の計画推進の参考とさせていただきます。
3	竹山	1	-	-	地域の「人と人とのつながり」が求められているのに、そのつながりが細々としか感じられないのは何故だろうか。自治会役員や民生委員というその地域の指導的立場にいる人達に期待したいのは、その地域の一般の人達が、そばにいる時やすれ違う時に率先して挨拶したり、会合に出席したりして、積極的に「つながり」を強める心掛けを常時持つことをして欲しいと思う。役職をかさに着るのではなく、優しく暖かい心の持主として地域の人々に接して欲しいと思う。	いただいたご意見は、今後の計画推進の参考とさせていただきます。
4	白山	○	○	-	・おたがいさまカードの取組内容のPRをすることが必要だと思います。 ・良く理解できました。出来るだけ地域の活動に参加したいと思います。 ・第2期計画を実現し、素晴らしい緑区にしましょう。	いただいたご意見は、今後の計画推進の参考とさせていただきます。
5	新治中部	-	○	○	名前だけの役、この2年間、なにもしなくても良かった、これでもいいのかなーと思っています。なり手がいない自治会、プランもいいのですが計画だけですか。	地域活動の担い手に関するご指摘として、参考とさせていただきます。
6	新治中部	-	-	-	5年間で取り組んでいきたいこと 防犯・防災 1 中学生の「力」を活かす (1)中学生と地域団体との意見交換会(2)平日に地域と中学校の合同防災訓練(3)地域防災拠点における防災訓練を同一日に実施 2 高齢行方不明者等の調査 (1)高齢行方不明者等の調査については、地区民生委員・児童委員及び主任児童委員等を活用する(2)調査結果を地域で活用する 次世代 1 地域活動の担い手として団塊の世代の参加を促進する (1)各種運動会(2)防犯パトロールへの参加等 2 次世代の人材育成のため、家庭教育・生涯教育を充実する	いただいたご意見は、今後の計画推進の参考とさせていただきます。

					(1)図書館活動の充実(2)地域ケアプラザの充実	
7	新治中部	-	-	-	つながりを作るには、顔と顔の見えることが必要と思います。現状の考え方は地区社協の考えだけのようで、市民の（住民の）声をどう引き出すか、楽しみにしています。	いただいたご意見は、今後の計画推進の参考とさせていただきます。
8	新治中部	-	-	-	「一人ひとりの力」が発揮できるまちづくり（人材・担い手）若い人をいかに引き出すことができるのか。今一番、問題になることです。いろいろなボランティア活動をしてはいますがいつも困っています。	いただいたご意見は、基本目標2の取組において参考とさせていただきます。
9	新治中部	-	-	-	他の地域にはコミュニティバスのことが計画にのっていました。以前から上山の奥の方にお住まいの高齢者がバス停まで遠いので、地域の体操教室等に参加したくてもできないという話を聞いていました。昨年、この地域にもふれあいバスができて、皆さん喜んでおられます。が、本数が1日2本と少なすぎ、いろいろな行事に参加するには時間が中途半端です。新治中部に全くバスのことがふれられてなかったため、住民の足、また、外出意欲を向上させるためにふれあいバスの増便を載せてください。30分に1本が理想です。	いただいたご意見は、基本目標5の取組において参考とさせていただきます。
10	三保	4	-	-	緑区内はもちろん、近隣区や市のイベントや集まりのお知らせを、駅・スーパー等、人の集まる所に、できるだけ多く置いたり、貼ったりできるようになってほしい。（区役所、地区センターに来ない人々のために） チラシ置き場は、ゴチャゴチャになりにくい作りのラックだと尚、良い。そして、そういう集まりにいろいろな立場・職の人々が、いろいろな福祉を目的に、参加してくれるときっと良いアイデアが豊富に出てくると思う。	いただいたご意見は、基本目標4の「必要な情報が入手しやすいまちづくり」の取組において参考とさせていただきます。
11	山下	-	-	-	自治会に入っていない方が、周りに大勢住んでいらっしやいますが、どうしたらその方に入ってもらえるか？特にアパートに住んでいる方たちです。	いただいたご意見は、今後の計画推進の参考とさせていただきます。
12	長津田	1	○	-	ひとり暮らしの高齢者が今後とも増加傾向にあり、地域でささえ合う、見守る体制を行政機関、自治会、民生児童委員、保健活動推進員、老人会、社会福祉協議会が協働で活動を推進する体制の確立を提案します。	「ひとり暮らし高齢者」が抱える課題については緑区全域での課題であると考えています。今後の取組の参考とさせていただきます。
13	長津田	1・3	-	-	竹山団地はとても活動的でよいですね。長津田ももっといろいろなイベントを開催してください。	緑区社会福祉大会第2部の講演内容に関するご意見とさせていただきます。
14	長津田	-	-	-	平成29年3月末に完了する予定の長津田駅北側再開発事業に伴い、新たに流入する住民・商店と旧来の地域住民・商店の融合を図る施策・イベント等を立案すべきであると思う。そのために行政及び旧来住民有志からなる企画グループを立ち上げる必要があると思う。	いただいたご意見は、今後の計画推進の参考とさせていただきます。
15	-	5	-	-	長津田駅前の農協を移転して、跡地にバスロータリー及びタクシー乗り場を充実して、南北の連絡通路の所に上り下りのエスカレーターとエレベーターを設置することにより、利便性が良くなります。市営と神奈中は駅入口から駅前に乗り入れすることにより、乗客に対して利便性が良くなります。	いただいたご意見は、今後の計画推進の参考とさせていただきます。
16	-	○	○	○	市民が地域の活動に参加する立場で組みなおしてほしい	いただいたご意見

					<p>い。</p> <p>1. 目指す姿の「キーワード」は「行動目標のスローガン」としたら 基本目標1の事例：イベントに参加しよう、世代間・団体間の交流の場を作ろう、ご近所が話しあえる関係を、学生の力を借りよう、挨拶と一言運動、自治会単位に人材登録を</p> <p>2. 基本目標の「具体的な取組」は施策別に願いたいサービス団体別に作っていただいたので、施策別に組み直すと関係専門機関・相談先がわかりやすい</p> <p>3. (目標の設定) 今後5年間の各種整備事項とスケジュールを明確化してほしい</p> <p>(1)電話1本で相談できる地域化 相談例を列記し、相談先、電話番号、FAX番号、メールアドレス</p> <p>(2)ボランティアとして地域別に登録する仕組みを(資源の整理)、人材登録(資源)、区役所や団体データを可能な限り開示 ※個人情報の活用方法をもう一度整理</p> <p>(3)ボランティアの実務能力を高めるため、資格・得意分野の登録制を、(例)登録手帳を(資格・講座別に初級、中級、上級分野を)</p> <p>(4)20年後の緑区を描いてほしい：高齢者は、障がい者は、親子は、学生は、孤独な老人は、生活保護者は、年金生活は、働く場は・・・</p>	<p>は、今後の計画推進の参考とさせていただきます。</p>
17	-	○	○	-	<p>個人の方で地域の人たちの情報(例えば一人暮らし高齢者で買い物にも出かけられない、障がいがある)等を入力するには限界があります。そのためには個人情報を自治会長及び地区民生委員・児童委員に知らせてこそ、地域のささえあいができるのではないのでしょうか。(ささえあいカードの有効な活用を)</p>	<p>いただいたご意見は、今後の計画推進の参考とさせていただきます。</p>
18	-	○	○	-	<p>1. わかりやすく大変結構です。 2. 情報紙の文字は大きくしてください。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の計画推進の参考とさせていただきます。</p>
19	-	-	○	○	<p>自治会を主体とした活動は住民の声が行政に届けにくいと思います。受け皿になる地域密着の団体があり、情報を共有し利用する方法があると思います。ご検討してください。「お結び会」は5つの目標をもって行動しています。つながり、担い手、情報、場、健康等について話し合いが続いています。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の計画推進の参考とさせていただきます。</p>
20	-	-	○	○	<p>縦割りの行政から横へのつながりが必要な時代に変改されて来ています。地域での高齢化の増大、自治会への未加入者の増等、一方向だけの流れでは解決が難しくなっています。横へのつながり・情報・横からの担い手が等が必要になっています。横への伝え方・横への考え方を再検討し23年度にぜひ入れて下さい。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の計画推進の参考とさせていただきます。</p>
21	-	-	○	-	<p>講師の意見はその通りだと思います。但し、具体的な(No14のつながりづくりの推進と言われていたようですが)活動の方向が示す事が無かったように思います。理想は良いのですが現在このような事をしていましてと話されていると大変いい講演会になったと思います。</p>	<p>緑区社会福祉大会第2部の講演内容に関するご意見とさせていただきます。</p>
22	-	-	○	-	<p>講演の中で気になる事がありました。話し合う場とは何をさすのか良く判りませんでした。市民として大学の先生は理論が先行させているだけではないのでしょうか?</p>	<p>緑区社会福祉大会第2部の講演内容に関するご意見とさせていただきます。</p>

23	-	-	-	○	<p>緑区だけとっていいかわかりませんが、高齢者だけでなく、若い人でも独身の一人暮らしの人が増えてきています。彼ら、彼女らは若いうちはともかく、30、40代になっても一人であることが多く、しかも地域との接点を待たず、孤独死を迎えるケースもあります（私の知り合いが、横浜でもないですがいました）。こういった人たちのサポートもできるような体制作りも必要ではないかと思えます。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の計画推進の参考とさせていただきます。</p>
24	-	-	-	○	<p>「ささえあいカード」は民生委員だけでなく、自治会長、役員、班長まで広げて共有しないと災害時には活用できないと思えます。（個人情報保護に配慮しながら）</p>	<p>いただいたご意見は、今後の計画推進の参考とさせていただきます。</p>
25	-	-	-	-	<p>P.45、P.49にある、お結び会について、どのような活動しているか判りません。＜資料＞用語解説にいらしてほしいです。活動内容については、資料は用意が出来ますが、ぜひ用語解説に掲載してほしいものです。</p>	<p>「お結び会」は、地域で活動する地縁型組織とテーマ型組織との相互の活性化を目指し、「新しい人材を呼び込む」をテーマに、互いに交流する機会づくりなどを行っている任意団体です。資料の用語説明には緑区全域に共通する制度的な内容を掲載しております。</p>
26	-	-	-	-	<p>私は自治会に携って5年になりますが、朝日新聞の「孤独の国」の記事にあるように、我々自治会も夫婦、親子、兄弟世帯等が多く、1人が欠けると将来単身世帯になる可能性があり、今後増える事はあっても減ることはありません。現実に毎年10人前後亡くなる方がいます。その中で約6割程度が単身世帯になっています。</p> <p>孤独死も毎年発生しています。湯船の中、真夏の密閉された部屋での孤独死は、警察も遺族に遺体確認を許可しないと言う悲惨な状態です。</p> <p>最初に、現場とご遺族に接触する我々自治会関係者もかける言葉を失います。</p> <p>孤独死に関して私は数年前役所、警察関係者との懇談会で問題を提起して以来、役員会に皆さんと打開策を話し合っています。最近の孤独死は高齢者だけではなく、若い人にも発生し、事実2年連続で40代の単身男性が亡くなっています。</p> <p>最近の傾向は、年代に関係なくコミュニケーションの取り方を苦手とする方が多く、近所との交流、ふれあいを持って不幸な結果を招くことになります。</p> <p>現に上記の単身男性も交流を持たない人達でした。自治会としてもイベントへの参加等積極的に呼びかけ交流を図ると共に定例会の中で挨拶の習慣づけ、回覧板や会費袋等の手渡し、一泊以上外泊の連絡、いのちの電話の設置、近くの安否の確認の取れる友人を作ること、笛の常備、等々話し合いの中で解決策を模索しています。</p> <p>しかし簡単そうでこれらは実際に定着させるには時間がかかる永遠の課題であり、未永く取り組む問題です。以上が自治会を取り巻く現状報告です。</p> <p>関連して今回の「みどりのわ・ささえ愛プラン」に対して疑問と提案があります。</p>	<p>いただいたご意見は、地区毎の推進委員会の設置や取組に関するご指摘として、参考とさせていただきます。</p>

				<p>ヒルタウンの2,500以上の世帯に対し10~12人の選定委員では少なすぎます。しかも最も住民に接している単位自治会会長や役員をはじめ、民生委員の参加が出来ないのが大変に疑問です。自治会との接触、交流、意見交換もありません。取りあえず代表のみでの取組なのでしょうが、今後はもっと広い人達の意見を取り上げる事が必要だと思います。経費、場所等の問題もあろうとは思いますが、原則は一般公募がよいと思います。私は関連の講習会等に時間の許す限り出席していますが、自治会関係者にも今後の選定委員にも必ずしも積極的でない人もいて、一方的な選定には問題があります。一般公募において場所、人数、費用などの問題があれば、本来は避けるべきですが抽選で人数を絞ることやブロックに分けることもやむを得ないかもしれません。</p> <p>今の方式ではあまり効果的であるとは思えません。最低限自治会会長、民生委員は参加させるべきで意欲のある方の公募、応募方式もよいと思います。私は保護司も兼任していますが家庭崩壊の中での孤独、孤食から子供たちがコミュニケーションを取ることができず犯罪や地域で問題を発生させる事例を把握体験しています。</p> <p>これは全国民の問題であり一部の選定した人達で解決、前進するものではありません。</p> <p>広く綿密な計画を立て効果のある企画を熱望いたします。 以上</p>	
--	--	--	--	--	--